

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 福島県 】

学校名【 郡山市立宮城小学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	全校生 32名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (体育科) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	○ オリンピック・パラリンピック競技開催地区の県民・市民として多様性を受け入れ、人々が互いの人権を尊重し合い、ともに力を合わせて生活する共生社会の実現を目指す。
5 取組内容	<p>○ 7月8日(木)にパラリンピックの正式競技である「シットイング・バレーボール」の体験学習を全校生が実施した。聞いたことはあってもやったことがないという児童がほとんどであった。</p> <p>講師の先生のご指導をいただき、床に座ってボールをパスしたり、スパイクをしたりと、シットイング・バレーボールの難しさや楽しさ、奥深さを、子ども達全員が味わうことができた。終了後には、「楽しかった」という声がたくさん聞かれた。</p>



6主な成果	<p>○ シットティング・バレーボールを体験したことによって、シットティング・バレーボールそしてパラリンピックに対する興味・関心を高めることができた。</p> <p>これらの活動を通して、子ども達は「障がい者」「障がい者スポーツ」に大いに理解を示し、「障がいは個性」「みんなちがってみんないい」という多様性を受容する心が育ってきた。</p>
7実践において工夫した点(事業の特色)	<p>○ シットティング・バレーボールの説明の後、シットティング・バレーボールに取り組む時間を多く設定し、思う存分活動することで、競技の楽しさや難しさ、奥深さを味わわせた。</p> <p>○ 体験した日ばかりでなく、東京パラリンピックでのシットティング・バレーボールの競技日を児童に周知することで、大会でのシットティング・バレーボールの観戦を促したり、競技の様子を録画したVTRを鑑賞させたりすることで、よりシットティング・バレーボールの理解を深めようとした。</p>
8主な課題等	<p>○ 目的や方法を明確にして、教育課程に事前に組み入れることで「何のために」「どのような方法で」「どんな成果を求めらるか」がはっきりして、実施しての成果が生まれる。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>○ オリンピック・パラリンピックに関する事業を道徳教育の一環として教育課程に位置づけ、社会の形成者として必要な資質の育成を図る。特に、本校の課題であるチャレンジ精神の育成や主体的・対話的な学習に活用していきたい。</p> <p>○ パラリンピックの種目(ボッチャ：昨年度体験し、郡山市より用具を借りることができる競技)に関する体験学習を通して、運動の楽しさや障がいをもつ人、障がい者スポーツへの理解を深め、児童一人一人に「障がいは個性」「みんなちがってみんないい」という多様性を受容する心を今後も育てていきたい。</p>